

# 2026年4月17日 第3547回例会

於： 横須賀商工会議所

<点鐘・開会> 12:30 鈴木孝博 副会長

<斉唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> \*山本 一郎 様

\*米山奨学生 朴 裁 潤 様

<誕生日祝> \*若麻績 泰道 (S.21) \*堀川 泰輝 (S.56)

\*新倉 定治 (S.16) \*藤村 昌一 (S.34)

\*西村 安彦 (S.32) \*三堀 孝夫 (S.25)

各会員

<入会月祝> \*若麻績 泰道 \*植田 威 \*岩崎 次郎

\*小山 美智恵 \*笠木 英文 \*椿 和香

\*梶木 洋平

各会員



<会長報告> \*第1グループ会長・幹事会 報告

\*第9回理事役員会 報告

\*ガバナー事務所より

・ロータリーレート変更のお知らせ 4月1日から1ドル156円 ⇒ 160円

・令和7年青森県東方沖地震支援金協力依頼について

・第6回米山学友同窓会と米山奨学生歓迎会の開催のご案内について

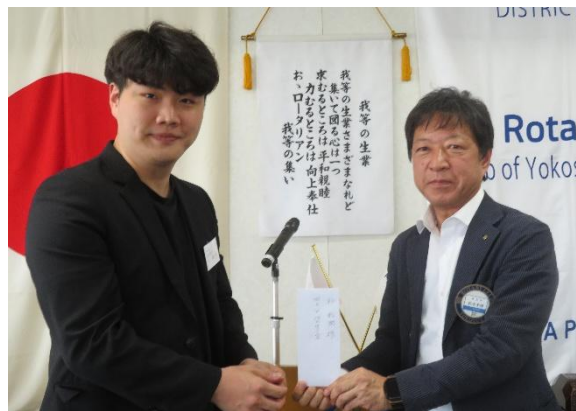
日時：5月16日(土) 13:00~13:30 受付・登録

13:30~16:30 米山学友同窓会/奨学生歓迎会

場所：伊勢原シティプラザ1階ふれあいホール

<委員長報告> \*雑誌委員会 江口副委員長よりロータリーの友4月号

<米山奨学生へ奨学金授与>



<幹事報告> \*三浦RCより週報受領

<出席報告> \*出席委員会 加賀本副委員長から4月17日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
110名	98名	61名(4名)	37名	10名	72.45%

メイクアップ: 小保内、角井、前田各会員 地区委員会出席 小澤会員 CLLS 参加  
勝見、小林(一)、小山(陽)各会員 被選理事役員会出席  
鈴木(之)、高橋(隆)、山下 各会員 理事役員会出席

### <ニコニコ報告>

- ・三 役 山本一郎様、本日はようこそお越しくございました。卓話楽しみにしております。
- ・権 田、高橋(峻)、木 村、八 卷、井 上、植 田、松本(明)、梁 井、齋藤(眞)、  
瀬 戸、柴 田、小佐野、杉 浦、澤 田、齋藤(隆)、長 尾、加賀本、齋藤(眞)、  
藤 村、三 堀、田 中、土 田、江 口、杵 渕、川 名、池 田、田 邊 各会員  
本日はブロガー/作家 山本一郎様による卓話です。今、日本全体で注目しているエネ  
ルギー戦略のお話です。本日はよろしくお願ひいたします。
- ・吉 住、植 田、佐久間、浅 葉、齋藤(眞)、加賀本 各会員 米山奨学生 朴 裁潤様ようこそお越  
しくございました。ごゆっくり例会をお楽しみください。
- ・若麻績、堀 川、新 倉、藤 村、三 堀 各会員 誕生月祝いとして
- ・若麻績、植 田、小山(眞)、椿、梶 木 各会員 入会月祝いとして
- ・鹿 島 会員 誕生月祝い(10月)として
- ・五十嵐、物 井 両会員 誕生月祝い(3月)として
- ・岡田(眞)、石 川、八 木 各会員 鈴木副会長、初めての会長代理よろしくお願ひします。
- ・杉 浦 会員 今回、夏井先生の選を頂き通算で3回目の俳句がロータリーの友に載りました。昨年と  
同じ季語での選で変わり映えしませんが今後も頑張ります。
- ・加藤(眞) 会員 ピンクリボンよこすか2026講演会チケット好評発売中!是非皆さんご協力お願ひ致  
します。
- ・鹿 島 会員 ご無沙汰をいたしています。
- ・物 井 会員 上もスッキリ、下もサッパリして戻ってまいりました。こんなにも世界は、女性達は  
美しかったのですね。
- ・石 田、徳 永、岡田(眞)、比 護 各会員 横須賀市立岩戸中学校出身のプロゴルファー石坂友宏選手  
が男子ツアー国内開幕戦で優勝しました。2位・プレーオフは何度かあるのですが優勝  
は嬉しいですね。これからの活躍が楽しみです。
- ・松 川、齋藤(眞)、野 坂、真 野、八 木 各会員 日本武道館でビートルズ1966年の来日公演の  
未公開ネガフィルム102枚分の写真が見つかり公開されました。武道館で音楽演奏な  
どが受け入れられない時代の貴重な写真です。インターネットなどでも見れるので、一  
度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

<卓 話> 「2026年の政権下で日本のエネルギー戦略はどう変わるのか  
— 政治分析からビジネス環境を読む」

一般財団法人情報法制研究所

事務局次長・上席研究員 山 本 一 郎 様

本日はこのような貴重な機会を頂戴し、誠にありがとうございます。鈴木豊司さんとは同窓で、20年ぶりに再会いたしまして今回このような機会を頂き大変光栄でございます。私は慶應義塾大学を卒業後、選挙分析および政策調査を専門分野として活動してまいりました。現在は情報法制研究所にて、政府・官邸・関係省庁からの委嘱を受け、国民意識調査や経済・社会情勢の分析、政策検討に資する基礎データの整理などに携わっております。また、家業の影響もあり、ロシア極東および中央アジア地域との関わりが長く、エネルギー資源の調達やそれに付随する国際プロジェクトについても実務の立場から関与してきました。横須賀には、仕事の関係でこれまで何度も足を運んでまいりました。研究機関や関連部署への訪問、調査業務などで年に数回訪れる地域であり、個人的にも非常に親しみを感じている街です。京急線の利便性、東京や横浜へのアクセスの良さ、港町としての独特の空気感など、他の地域にはない魅力を持っていると感じています。一方で訪れるたびに、この街が抱えている課題について考えさせられることも少なくありません。本日はお話ししたい内容は、国際情勢やエネルギー問題、人口減少や地域社会の持続性といった、一見すると日常生活や地域経済から距離のあるテーマです。しかし実際には、これらは横須賀という街の将来、ここで事業を営み、暮らしていく皆様の選択と密接につながっています。その点を意識しながら、お聞きいただければ幸いです。日本は資源に恵まれない国であり、長年にわたって世界の平和と安定した国際秩序のもとで、貿易立国として成長してきました。海外からエネルギーや原材料を調達し、それを加工し、付加価値を生み出すことで経済を成り立たせてきた国です。しかし近年、その前提条件が大きく揺らいでいます。ロシア・ウクライナ情勢の長期化、中東地域を巡る緊張の高まり、為替の急激な変動やエネルギー価格の上昇など、外部環境の変化はこれまで以上に複雑かつ連続的に起きています。私自身、サハリンを含む現地に赴き、日本向けエネルギー供給を維持するための調整業務に携わってきましたが、現場で強く実感するのは、日本一国の判断や努力だけでは解決できない問題が増えているという現実です。エネルギーや原材料の供給、製造拠点、物流網は、アジアを中心に複雑に結びついており、どこか一地域で不安定化が起これば、それは必ず日本にも波及します。日本国内だけを見て安全であっても、周辺国や取引先国の経済や社会が不安定になれば、日本経済も無傷ではられません。



関係でこれまで何度も足を運んでまいりました。研究機関や関連部署への訪問、調査業務などで年に数回訪れる地域であり、個人的にも非常に親しみを感じている街です。京急線の利便性、東京や横浜へのアクセスの良さ、港町としての独特の空気感など、他の地域にはない魅力を持っていると感じています。一方で訪れるたびに、この街が抱えている課題について考えさせられることも少なくありません。本日はお話ししたい内容は、国際情勢やエネルギー問題、人口減少や地域社会の持続性といった、一見すると日常生活や地域経済から距離のあるテーマです。しかし実際には、これらは横須賀という街の将来、ここで事業を営み、暮らしていく皆様の選択と密接につながっています。その点を意識しながら、お聞きいただければ幸いです。日本は資源に恵まれない国であり、長年にわたって世界の平和と安定した国際秩序のもとで、貿易立国として成長してきました。海外からエネルギーや原材料を調達し、それを加工し、付加価値を生み出すことで経済を成り立たせてきた国です。しかし近年、その前提条件が大きく揺らいでいます。ロシア・ウクライナ情勢の長期化、中東地域を巡る緊張の高まり、為替の急激な変動やエネルギー価格の上昇など、外部環境の変化はこれまで以上に複雑かつ連続的に起きています。私自身、サハリンを含む現地に赴き、日本向けエネルギー供給を維持するための調整業務に携わってきましたが、現場で強く実感するのは、日本一国の判断や努力だけでは解決できない問題が増えているという現実です。エネルギーや原材料の供給、製造拠点、物流網は、アジアを中心に複雑に結びついており、どこか一地域で不安定化が起これば、それは必ず日本にも波及します。日本国内だけを見て安全であっても、周辺国や取引先国の経済や社会が不安定になれば、日本経済も無傷ではられません。

エネルギーの安定確保という問題は、自国の利益だけを考えて完結できるものではなく、周辺諸国や国際社会との協調の中でこそ成立します。一見遠回りに思えるような協力や支援が、結果的に日本自身の産業や生活を支える土台になるという側面があります。こうした視点は、港を通じて世界とつながってきた横須賀という街の歴史とも、どこか通じるものがあるのではないのでしょうか。このような国際環境の変化の中で、日本に求められる役割は、軍事的な力による単純な抑止ではなく、外交、経済、人的交流を通じた粘り強い関与であると考えています。自ら考え、自ら判断し、国際社会の一員として責任を果たす姿勢が、結果として日本の立場を安定させます。地域社会で培われてきた相互扶助や信頼関係は、実は国際社会における関係構築とも通底するものです。ロータリークラブが大切にしている「良いことのために手を取り合う」という理念は、いま世界が最も必要としている考え方の一つだと、日々の仕事を通じて感じています。国内に目を向けると、人口減少と地域間格差という構造的な問題が、静かではありますが確実に進行しています。横須賀においても子どもの数が減り、地域によってはかつての活気が徐々に失われつつあると感じられる場面があります。特に子育て世代の流出は、地域経済だけでなく、地域コミュニティ全体に大きな影響を及ぼします。医療や教育への不安、共働き世帯を支える環境の不足、仕事の選択肢の限界などが重なり、若い世代ほど都市部へ移動する傾向が強まっています。

横須賀の特徴的な点は、交通の利便性が高いことです。京急線を使えば都心まで短時間で移動できるため、通勤や通学の面では非常に恵まれています。しかしこの利便性が結果として東京圏への恒常的な人口流出を促してしまうという、逆説的な現象も見られます。暮らしやすい街でありながら、人が定着しにくいという

構造は、今後の地域経営を考える上で避けて通れない課題です。人口減少は全国一律に進んでいるわけではなく、地域ごとに濃淡を伴って進行しています。その結果、学校、病院、公共交通といった社会インフラの維持が難しくなる地域も出てきます。これらの機能は一定の人口規模を前提として成り立っているため、人口がある水準を下回ると、生活の質が急激に低下する恐れがあります。横須賀が今後も魅力ある街であり続けるためには、単に利便性に頼るのではなく、「ここで暮らし続けたい理由」をどのように積み重ねていくかが重要になります。こうした人口構造の変化の中で、社会保障制度の改革はすでに先送りできない段階に入っています。一方で、働き方改革が地方や中小企業にとっては大きな負担となっている現実もあります。横須賀を含む多くの地域で人手不足が慢性化する中、柔軟な働き方が認められなければ、生産活動やサービス提供そのものが立ち行かなくなるという声が聞かれます。制度が目指す理想と、現場が直面している現実との間に生じているギャップを、どのように埋めていくのかは、今後の政策と地域の工夫の両面から考える必要があります。さらに、これからの経済環境を考える上で、特に注意が必要なのが金利動向です。円安や物価上昇が進む中、市場要因によって市中金利が上昇する可能性が高まっています。これは政策金利とは必ずしも連動しない動きであり、企業、とりわけ中小企業や地域に根ざした事業者にとっては大きな負担となります。借入金利の上昇は、黒字で経営が成り立っている企業であっても資金繰りを圧迫し、場合によっては事業継続を困難にしかねません。そのため今後は、事業内容の見直しや資本構成の整理、同業他社との連携、事業承継の検討など、変化に備えた取り組みがこれまで以上に重要になります。横須賀のように地域経済の基盤がしっかりしている街こそ、早い段階でこうした備えを進めていくことが、次の世代に地域を引き継ぐ力になると考えています。本日お伝えしたかったのは、不安を強調することではありません。先行きが不透明な時代だからこそ、状況を正しく理解し、備え、そして互いに協力することが重要であるという点です。横須賀という街で培われてきた人と人とのつながり、地域を思う気持ちは、これからの変化の時代を乗り越える大きな力になります。皆様一人ひとりの経営判断や地域での取り組みが、次の世代に持続可能な社会を引き継ぐための確かな土台となることを願っております。本日の内容が、そのための一つの視点としてお役に立てば幸いです。ご清聴、誠にありがとうございました。

※内容を省略して記載しております。

<閉会・点鐘> 13:30 鈴木孝博 副会長

週報担当 高橋 岐 武